

令和3年8月3日  
北海道新聞

# チカホに夏のサクラ 五輪応援で展示

東京五輪マラソン・競歩の応援用に全道32市町村から集めたサクラ約2千本が2日、札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)の「憩いの広場」に飾られた。

当初は沿道の観客に配る予定だったが、新型コロナウイルス対策で道や札幌市が観戦自粛を呼び掛ける中、配布をやめて展示に切り替えた。

道内の経済関係者でつくる北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会が協力し、同市が主催。サクラは空知管内沼田町内の農作物の冷蔵に使う雪山で保管して開花を遅らせ、マラソン・競歩が行われる5〜8日に満開になるよう準備してきた。

エゾヤマザクラ、ソメイヨシノ、ヤエザクラの3種類でほとんどがつぼみの状態。越智文雄実行委員長は「徐々に開花するのを楽しんでもらい、選手や関係者におもてなしの気持ちが出来れば」と話した。通りかかった北区の新田洋子さん(77)は「満開になるのが楽しみです」と笑顔を見せていた。

(今関茉莉)

札幌駅前通地下歩行空間に飾られたサクラ。マラソン・競歩の競技のころには満開になる見込み(中村祐子撮影)



# 真夏の桜 五輪選手を応援 チカホ

桜の枝を雪蔵で冷蔵保存し、開花させた「雪氷桜」が2日、札幌駅前通地下歩行空間「チカホ」に飾られた。5〜8日に札幌市

中心部で行われる東京五輪の競歩とマラソンの選手を応援しようという企画だ。展示は8日まで。

昨年末から今年初めにかけて道内の32自治体から3200本以上の桜の枝が集まった。沼田町の排雪貯蔵施設「沼田式雪山センター」で保存し、7月に取り出した。まだ桜はつぼみが多いが、マラソンがある7〜8日ごろには満開になりそうだという。

(芳垣文字)



五輪の競歩とマラソンの選手を応援しようとして飾られた雪氷桜。札幌市中央区のチカホ

令和3年8月3日 朝日新聞

令和3年8月3日 毎日新聞

# 窓からサクラで応援

札幌 マラソンの沿道住民

東京オリンピックのサクラの枝の提供を呼び掛けたところ2月までに32市町村から約3000本が集まり、沼田町の雪山で冷蔵保存し、開花を遅らせていた。

越智文雄実行委員長は「沿道は観戦自粛のため、部屋からでもおもてなしの気持ちを送らなければ」と話す。サクラの一部は札幌駅前通の地下歩行空間で2日に展示が始まり、8日まで飾られている。【十六谷純一】

道内の自治体に剪定





チカホに設置され、咲き始めた「雪氷桜」のオブジェ

「雪氷桜」地下歩行空間を彩る

札幌市スポーツ局は、東京2020オリンピック競技大会のマラソン・競歩競技札幌開催に向け、雪感で冷感保存・開花させた「雪氷桜」のオブジェを札幌駅前通地下歩行空間(チカホ)憩いの広場に設置した。桜はマラソン競技が開催される7,000日に満開となる見込みで、咲き始めた桜が広場を彩っている。

五輪マラソンごろに満開

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会が協力した。2020大会の観戦客へのおもてなし、北海道、札幌市の魅力を発信する目的で、全道32市町村から集まったつぼみの枝約2000本を飾っている。北海道神宮からも枝の提供があった。1-2月に道内各地から集まったエゾヤマザクラとソメイヨシノ、ヤエザクラの剪定枝を沼田町の雪で貯蔵。7月24日に沼田町の雪山センターから掘り起こし、札幌市内で段階的に温め開花させた。

設置期間は8日まで。実行委員の越智文雄委員長は「花が咲くのを市民にも楽しんでほしい」と話している。

オリンピックの競歩も、札幌で始まりました。きょう夕方は女子20キロ競歩、明日からはマラソンが予定されています。新型コロナウイルスの感染拡大も深刻に懸念され、交通規制や猛暑などさまざまな問題がありますが、アスリートの背中に札幌の街並みが世界に配信されることは、市民としてうれしくもあります。マラソン中継では、ランナーが国道453号に入ったら沿道沿いのマンションにも注目してみてください。窓やベ

北海道らしいおもてなし



宮井貴子の「お天気コラム」



沼田町の宿泊施設で公開された雪の冷気で開花を遅らせたサクラ

ランタから花を振って応援する住民がテレビに映し出されるかもしれません。沿道の応援がかなわない中、せめて北海道らしいおもてなしを届けようと、企画する市民団体と共に準備が進められているよ

うです。南富良野町からランター、当別町からは「マワリ。そして、何と桜もあるよ」です。早春、全道各地の市町村や北海道神宮などから提供されたつぼみの枝約3千本を沼田町の雪室で保存し、先日掘り出された「雪氷桜」とか。北海道の雪氷熱技術が使われた、国花でもある桜が、世界の人々に見てもらえる機会になると思います。(気象予報士、UHB「みんなテレ」お天気キャスター)



# ベランダに桜 密避け声援



自宅ベランダから花を持ち選手を応援する吉田さん一家（7日、札幌市）＝写真上。雪山に運ばれ、埋められる直前の桜の枝（同下）＝北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会提供

東京五輪のマラソンが開催されている札幌市で、コース沿いのマンション住民

が桜の枝を持ってベランダから声援を送っている。日本を代表する花で選手をもてなそうと、雪で低温貯蔵し開花を遅らせた。新型コロナウイルス下で沿道の応援自粛が求められるなか、関係者は「桜のエアールが届いてほしい」と話す。

「頑張れ!」。女子マラソンが行われた7日朝、札幌市豊平区のコース沿いに立つマンションのベランダでは、選手を応援する住民の姿があった。手には薄ピンク色の花を咲かせた桜の

## 届け エール

枝が握られている。

吉田智哉さん（38）は自宅の5階ベランダから、花を持ちながら妻と3人の息子と観戦した。「無観客の寂しさもあるが、地元の花を使って応援できた」。長男の翔哉くん（11）は「4年一度しかない五輪を間近で見られてうれしい」と喜んだ。

桜の枝などは、民間有志の「北海道雪氷桜（せつびようさくら）プロジェクト」が、2008年7月にあった北海道洞爺湖サミットでも各国首脳をもてなそうと、この方法で開花時期を合わせた桜を新千歳空港に飾った。

桜は当初、国立競技場（東京・新宿）の開会式などで飾ってもらう想定だった

2008年7月にあった北海道洞爺湖サミットでも

各国首脳をもてなそうと、この方法で開花時期を合わせた桜を新千歳空港に飾った。

## 札幌、マラソン沿道の市民 雪で保存、満開でもてなし

桜は当初、国立競技場（東京・新宿）の開会式などで飾ってもらう想定だった

さらに無観客開催となったため、最終的には沿道のマンションの住民の協力を得てベランダからかざしてもらおう形で本番へ。今年7月に雪中から取り出した約100本の桜にラベンダーやひまわりを加え、計約1500本を配った。

札幌市で真夏日が続く中、桜は狙い通りに満開を迎えた。

越智さんは「札幌で五輪が開催される貴重な機会。雪を活用するなど北国の特徴を生かした応援が届けば」と語った。

が、19年11月にマラソン会場の札幌市への移転が決まり、沿道の観客に配る計画に変更。20年3月に道内各地からつぼみのついた桜の枝を集め、雪の貯蔵施設に埋めた。

しかし、新型コロナウイルスの影響で同月に大会の1年延期が決まった。桜を丸1年保存するのは難しく、この年は地元での展示のみに。それでも「住民一丸で応援してアスリートに喜んでほしい」（越智さん）と、21年に再挑戦した。



地域から

風街  
だより



かれんに咲いた白やピンクの花々に目を奪われた。7月下旬、空知管内沼田町の宿泊施設「ほろしん温泉ほたる館」のロビーに、満開の花に彩られたサクラの枝300本が登場した。

サクラは7、8の両日に札幌市内で開かれている東京五輪男女マラソンの応援で使用されるもの。沼田町が、道内の経済関係者でつくる北海道雪水桜プロジェクト実行委員会（札幌市）に協力し、全道32市町村から寄せられたエゾヤマザクラやソメイヨシノなどの枝3300本を今年3月、町内の雪の貯蔵施設などに保管。五輪本番の直前に

深川支局長・大場俊英

雪蔵のサクラ 五輪沿道に

一部の枝を雪蔵から取り出し、試験的に開花させた。

「五輪桜」の責任者は、町農業推進課利雪技術開発センター長の伊藤勲さん(48)。一昨年から雪蔵に保管したサクラを夏場に開花させるプロジェクトに取り組んでいる。「サクラは松前町や森町といった道南地方、北は礼文島、東は網走や釧路など広範囲のもの。同時期に開花させるため、これまで試行錯誤の連続でした」と振り返る。

最初の年は、各自治体から送られてきたサクラの芽の膨らみ具合や、枝の長さがばらばらで、伊藤さんが改めて選別したことも。雪蔵から外に出してから、何日で花が咲くかなど地域ごとにサクラのデータを測定した。新型コロナウイルス感染症の影響で五輪が1年延期になった昨年は、4〜10月に毎月、計7回の開花試験を実施し2021年に備えることができたという。

五輪桜は当初、マラソン競技当日に沿道の観戦者に配布し、ランナーを激励する予定だった。だがコロナ禍により、沿道は「無観客」が決定。サクラはコース沿道のマンション住民や商店に配られ、マンションのベランダなどに飾られて選手を励ます。伊藤さんは「見た人を笑顔にするのが夏のサクラ。五輪を通じて、沼田と北海道がこんなことをしてアスリートを歓迎しているんだよと、世界の人に知ってもらえるのがうれしい」と話す。



空知管内沼田町の宿泊施設で7月下旬、お披露目された「五輪桜」。

沼田町は道内でも有数の豪雪地帯。それを逆手に取り、除雪作業でため込んだ雪を活用し、冷気で貯蔵した「雪中米」の販売や、他の地域と収穫期をずらしたイチゴやシイタケの栽培、公共施設の夏場の冷房に取り組んでいる。

小さな町の、地道なチャレンジに注目したい。



# 沿道に道産花や横断幕

## 住民、感染対策取り歓迎

### 女子マラソン



札幌市内で東京五輪女子マラソンが行われた7日、コースが設置された豊平区の平岸通では地域住民が「地元」を走り抜ける選手たちを道産のサクラやヒマワリを手に歓迎した。北区のコース沿上にある小中学校4校は、子どもたちのメッセージが書かれた横断幕を掲げ、エールを送った。

(阿部里子、岩崎あんり)



平岸通でヒマワリなどを手にして選手たちを歓迎する子どもら—7日午前6時35分、札幌市豊平区 (石川崇子撮影)

平岸通では地元のYOSA AKOIソーランチーム「平岸天神」のメンバーら約30人が、沿道近くの会社敷地内など3カ所から選手に手を振った。コース沿いのマンションのベランダで花を持って観戦する人もいた。豊平区の会社員杉本菜摘さん(30)は「通り慣れた道を選手が走る様子に感動した」と笑顔を見せた。

道産花での応援は経済関係者でつくる北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会が企画。競技開始が1時間早まり応援に間に合わなかった人もいたが、越智文雄委員長は「感染対策を取って応援した。選手の力になれた」と手応えを語った。

北区のコース沿上にある北辰中、北九条小、幌北小、白楊小は応援メッセージを載せた横断幕を各校で掲揚。全児童生徒が書いた言葉が並び、中心に「ようこそ! Tokyo 2020 in SAPPORO」とあしらった。メッセージ数は計約2千。同中の田中健児教頭は「五輪に一部でも関わったことが、子どもたちの記憶として残ってほしい」と話していた。

6人を含む10人で7月23日から同31日までホストタウンの恵庭市に滞在した。交流会では、YOSA AKOIソーランチーム「恵庭紅鴉」などが演奏や踊りを披露した後、選手への質問などが行われた。男子20キロ出場のホセ・バロンドさんは「歓迎をありがとう。人生は簡単ではないが、みなさんも練習や勉強して自分の夢をかなえて」と呼び掛けた。

(佐藤宏光)





気持ちだけでも涼しく…かかし&雪だるまが「おもてなし」

札幌開催女子マラソン “応援自粛”道民に代わり見守った

札幌で行われた女子マラソンのコース沿道で創意工夫の「おもてなし」がみられた。ス

タートから5キロすぎ、「美容室桜井」中島店の前では着飾ったかかしが「熱視線」。コロナ

下で応援自粛が呼び掛けられる中、三沢龍子会長(81)が発案した。「かかしの“さくらち

ゃん」に思いを託しました」と、自身は沿道に出ることなく店の玄関先から応援した。10キロ手前には雪だるまが登場。東京開催予

定だった頃から暑さ対策で雪柱を設置する提案があった。自粛で計画は中止されたが、違った形で酷暑のレースの清涼剤となった。

札幌で行われた女子マラソンのコース沿道では雪だるま(左)とかかし(右)が酷暑のレースを見守った



# 北海道 スポニチ



## 沿道での応援自粛五輪マラソンで交流

気になる  
道トピ  
topic

札幌が舞台となった7、8日の東京五輪陸上マラソンで、世界各国のランナーを創意工夫で「おもてなし」し平岸地区の沿道では子供たちがひまわりを振って応援

人たちがいた。5ヶ月前の中島公園沿いにある「美容室桜井」中島店の前では、浴衣や法被などで着飾ったかかしが選手に「熱視線」を送った。103年続く老舗美容室を経営する三沢龍子会長(81)の発案だ。19年11月に札幌開催が決まると歓迎のボードを店に掲げた。外国人との接点は30年来。円高で生活が苦しい留学生に無料で着付けやヘアセットを行うポラ

ンティアを続け、約1万8000人を手助けしてきた。「ずっと留学生を応援してきて、マラソンでも札幌に来てくれた人に気持ちを寄せたかった」と話す。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、沿道での応援自粛が求められた。代わりに「さくらちゃん」と名付けたかかしに思いを託し、自身は沿道に出ることなく店の玄関先から応援した。レースに先立つ5日には

ne to SAPPORO



「美容室桜井」中島店前ではかかしが応援(右端は三沢会長)

## かかし、雪氷桜：創意工夫で世界のランナー「おもてなし」

「奇蹟になった街でもてなしをしたい」と協力してくれる団体の約50人と近隣を清掃。店先にはコロナ収束や五輪成功を願う七夕飾りもした。「コロナが落ち着いたら、また札幌に来たいと思ってくれたらうれしい」としみみ話した。10ヶ月前の平岸地区ではソーラン踊りの名門チーム「平岸天神」のジュニアメンバーや保護者らが間隔を取りながら応援。沿道のマラソンの住民もペラペラに出歩いて、北竜町と当別町のひまわり語った。

や南富良野町のラベンダー、そして桜の枝を両手で振っていた。桜は全道32の自治体から春に集めた枝を沼田町の雪室に埋め、開花を遅らせたもの。暑さ対策の雪柱設置とともに、東京開催予定だった頃から「北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会」が企画を進めていた。自粛の流れで規模は小さくなったが、越智文雄実行委員長(68)は「ランナーが手を振ってくれた。感激した。子供たちの記憶にも残ると思う」と語った。